

新生ばんえい競馬の幕開けを告げた第1レース=27日午前11時、帯広競馬場



北海道新聞

発行所
北海道新聞帯広支社
〒080-8655
帯広市西4条南9丁目1-4
帯広市外局番 0155
報道(24)2151
営業(24)2153
販売(24)2155
©北海道新聞社 2007

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購読申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

ばんえい十勝 開幕

帯広市単独開催による本年度のばんえい競馬が二十七日、帯広競馬場で開幕した。昨年度まで道内四市で開催されていたばんえい競馬は、オッズパーク・ばんえい・マネジメント(OBM)の支援を受け、世界で十勝にしかない「ばんえい十勝」として再出発した。改修で明るい雰囲気広がる場内には朝から多くのファンが詰めかけ、迫力のレースに歓声を上げた。

また、再出発に合わせた改修で新設された、親子一緒に来た子どもが遊べる遊戯室(キッズルーム)や、子どもがポニーなどと触れ合えるコーナーも人気を集めた。新たな塗装や分煙化で清潔感が漂う場内は、観光客にも「また、遊びにきたい」などと好評だった。

レースは来年三月二十四日までの土、日、月曜日を中心に百五十日間の開催を予定。六月十六日から九月十七日は、初めてのナイトレースを行う。

帯広市長が「帯広単独による新生ばんえい競馬の幕開けです」と開幕を宣言した。



開幕を宣言する砂川市長

市民が後押し 迫力レース

北海道新聞の夕刊十勝版では、ばんえい競馬のミニ知識やレース情報を紹介する「ビバ!BANBA」を毎週金曜日に掲載しています。また、道新帯広支

社は、ホームページ内のコーナー「ばんえい十勝」(<http://tokachi.hokkaido-np.co.jp/banei/>)で、「ビバ!BANBA」や、ばんえい競馬の特集記事を公開しています。

新聞購読の申し込み、問い合わせは、道新帯広支社販売部 ☎0155・24・2155へ。



夕刊十勝版で毎週金曜日掲載!

愛されるばん馬目指し



アイドル馬

帯広市の「特別嘱託職員」に任命されたばん馬のリッキー。子供向けイベントなどで、ばんえいをPRする＝07年4月、帯広市役所前

世界で唯一、北海道だけで行われるばんえい競馬は一九一〇年前後、フランスなどから輸入した大型農耕馬を、農家が祭りで力比べさせたのが始まりだ。五三年度に帯広、旭川、北見、岩見沢の四市がそれぞれ市営のばんえい競馬を開始。八九年度、経営効率化を目指し、四市が北海道市営競馬組合を設立、運営を一本化した。

バブル崩壊後、長期低迷した。昨年末、多額の累積赤字を理由に、帯広を除く三市が競馬廃止を相次いで表明。帯広市も「単独開催は困難」としていたが、全国から存続署名や募金が集まった十二月には、情報技術(I T)業界大手ソフトバンクグループが支援に名乗りを上げ、同グループのオッズパーク・ばんえい・マネジメント(O B M)と帯広市の運営による存続が決まった。



再生の誓い

ばんえい競馬存続発表の記者会見。帯広市の砂川敏文市長(中央)とO B Mの藤井宏明社長(右)が固い握手を交わした＝06年12月、帯広市役所



迫力伝えて

帯広競馬場で行われたばんえい競馬を舞台にした映画「雪に願うこと」の撮影。同作は2005年の東京国際映画祭で四冠に輝いた＝05年2月

市民の手で
帯馬帯
場場場
広広広
ののの
競競競
気気気

